

特別展 明治美術狂想曲

Special Exhibition Meiji era Art Capriccio

会 期：2023年4月8日(土)～6月4日(日)

前期:4月8日(土)～5月7日(日)／後期:5月10日(水)～6月4日(日)

休 館 日：月曜日、5月9日(火) <8週間 58日開催>

開催場所：静嘉堂@丸の内

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1階

開館時間：10:00～17:00 ※金曜は 18:00 閉館。入館は閉館時間の 30 分前まで

主 催：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人静嘉堂)

ホームページ：<https://www.seikado.or.jp/> twitter：@seikadomuseum

お問合せ：電話 050-5541-8600(ハローダイヤル)

入 館 料：一般 1,500 円 大学・高校生 1,000 円 中学生以下無料

障がい者手帳提示の方 700 円(同伴者 1 名無料) ※日時指定優先(当日券もあります)



開催趣旨

江戸幕府が倒れ、西洋文明が流入した明治時代は「美術」が産声を上げた時代でした。

政治体制・身分制の改革、西洋風の建築やファッションの普及など、社会の面でも、文化の面でも、人々の生活と意識に大きな変化をもたらされました。

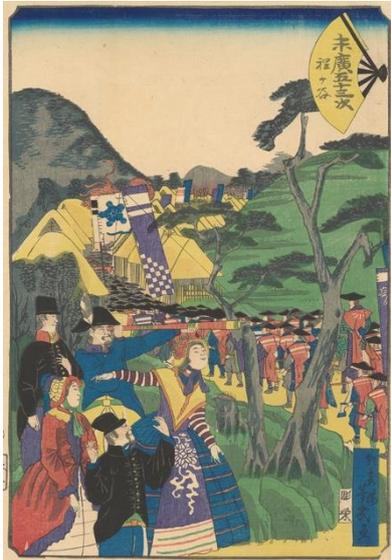
「美術」という言葉が誕生し、博覧会が開催され、美術館が初めて設置されたのもこの時代です。油彩画が普及し、欧米好みの華麗な工芸品が輸出され、博覧会では絵画や彫刻が並びました。社会全体が西洋化する一方、古美術品の再評価や保護、日本美術史の編纂も、明治時代の重要な出来事です。

本展では、現代の「美術」につながる諸制度・文化が生まれた明治時代を立脚点として、静嘉堂のコレクションを展観します。初めて重要文化財に指定された近代美術の一つである橋本雅邦「龍虎図屏風」、論争を巻き起こした黒田清輝「裸体婦人像」など、岩崎家とゆかりが深く、当時としてはセンセーショナル、しかし現代でも色あせない明治美術の魅力をお楽しみください。

本展の見どころ

①江戸時代の余韻と新たな時代の幕開けを感じさせる絵画

幕末には社会を揺るがす歴史的事件がおこり、欧米からはさまざまな文化が流入。それらは世間の耳目を集め、錦絵の画題になり、画家の創作意欲を大いに刺激したことでしょう。この頃の絵画には、江戸時代の表現技法を用いつつ、目新しいモチーフを描いていました。



初公開

落合芳幾「末広五十三次 程ヶ谷」

慶応元年（1865）、大判錦絵

*第二次長州征伐にともなう第14代将軍徳川家茂の上洛を主題とした東海道シリーズ。「程ヶ谷」には西洋人も表現され、幕末の世相を感じさせます。

展示期間：5/10～6/4



河鍋暁斎

「地獄極楽めぐり図」のうち

「極楽行きの汽車」

明治5年（1872）、紙本着色

*歌川派、狩野派に学んだ画狂・暁斎（1831～89）がパトロンの娘の追善供養に描いた画帖。

当時珍しかった列車をさっそく描いています。

展示期間：4/8～5/7

②欧米好みで、超絶技巧で、古美術にも造詣が深い!! 明治工芸の世界

明治時代になると、欧米でのジャポニスムブームもあり、外貨獲得のため欧米人に好まれるデザインの工芸品が製作・輸出されました。その技術は精緻を極め、最近では「超絶技巧」とも称されます。一方で、古美術に学ぶことにも余念が無いのが明治工芸です。



薩摩焼「色絵金彩麒麟乗香炉」

明治9年（1876）頃

*輸出陶磁器として欧米で好まれた華やかな薩摩焼



荒木（狩野）探令（1857～1931）原画

吾妻焼「釉下彩竹に雀図皿」

明治18年（1885）

* 伝統的な日本画の表現を陶器に応用すべく
ゴットフリード・ワグネル（1831～92）によって
創始された吾妻焼（後に旭焼と改称）。

柴田是真「柳流水蒔絵重箱」

江戸～明治時代（19世紀）

* 5段の重箱に各段色変わりの漆絵で急流の情景を描いた作。



国宝「曜変天目（稲葉天目）」

南宋時代（12～13世紀）

* 光彩が得も言われぬ名碗。完品は世界に3碗のみ。

明治13年（1880）、古美術再評価のきっかけとなった
第1回観古美術会に稲葉家より出品されました。

「曜変天目」が展示された最初の展覧会で、明治時代の
人々も「曜変天目」を見ていたのです。

鈴木長吉「鷹置物」

明治時代（19～20世紀）

* 帝室技芸員にも選出された

鈴木長吉（1848～1919）のリアルな
鷹。明治工芸の技術の高さを示して
います。





渡辺省亭原画

濤川惣助「七宝四季花卉図瓶」

明治時代 19～20 世紀、七宝

* 花鳥画を得意とした渡辺省亭（1852～1918）の原画をもとに濤川惣助（1847～1910）が無線七宝で製作した瓶。この2人は迎賓館赤坂離宮の室内を飾る額も製作しています。

③三菱第2代社長・岩崎彌之助と明治美術の接点

静嘉堂を創設した三菱第2代社長・岩崎彌之助（1851～1908）と明治美術の接点には、明治28年（1895）、京都で開催された第4回内国勸業博覧会や岩崎家の邸宅を飾る室内装飾があります。第4回内国勸業博覧会では、当時を代表する日本画家に屏風絵を依頼、マスコミを賑わす博覧会の目玉企画となりました。

「裸体画論争」を巻き起こした黒田清輝「裸体婦人像」は、後に岩崎家高輪邸に飾られました。



重要文化財

橋本雅邦「龍虎図屏風」

明治28年（1895）、絹本着色

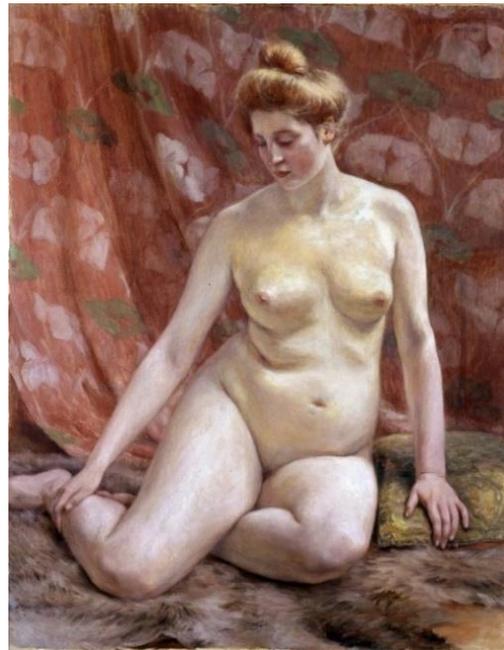
* 第4回内国勸業博覧会（京都）に出品された橋本雅邦（1835～1908）の代表作。しかし、当時の評価は…。

展示期間：4/8～5/7



今尾景年「耶馬溪図屏風」
明治 28 年（1895）、絹本墨淡彩
* 京都の日本画家・今尾景年（1845
～1924）による第四回内国勸業博覧
会出品作。水平線を低く設定したな
めらかな空間表現が見事。
展示期間：5/10～6/4

黒田清輝「裸体婦人像」
明治 34 年（1901）、キャンバス、油彩
* 「裸体画論争」を巻き起こした話題作。
当時の洋画を牽引した画家・黒田清輝（1866～
1924）の代表作で、岩崎家の高輪邸撞球室
（ビリヤード室）に飾られました。



■ 展覧会図録も販売いたします

【報道に関するお問い合わせは】

◆ 静嘉堂文庫美術館 広報事務局（共同 PR 内 担当：三井）

※在宅勤務も増えているため、メールでいただけると助かります。

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆ 静嘉堂文庫美術館 E-mail: press@seikado.or.jp TEL. 080-1708-7717（広報担当：大森）